臨地実習の意義

看護の目的は、あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象とし、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通してその最期まで、その人らしく生を全うできるように援助を行うことです。

この目的を達成するためには、5つの看護実践能力（1. 対象を理解し、援助的関係を形成し、倫理的実践を行えるヒューマンケアの基本的能力　2. アセスメント（看護診断)･計画・実施・評価を構成要素とする、根拠に基づいた看護を計画的に実践する能力　3. 対象特性や病気の経過を理解し、健康状態に応じた看護が実践できる能力　4. 保健医療チームの一員として、看護専門職者としての役割を遂行し、多職種と協働できる能力　5. 専門職者として、生涯、学び続ける基本的能力）を身につける必要があります。

これらの能力を身につけるための学習形態は3つあり、それは、講義・演習（技術演習を含む)・臨地実習です。中でも、臨地実習は学生が主体的に学ぶことのできる貴重な体験学習の方法です。この体験により得るものは、机上の学習では得がたい、看護実践者になるのに不可欠な、応用できる知識・技術の習得だけでなく、倫理的態度や臨床判断能力の育成につながるものです。

リアルな場面、リアルな課題（真正性）に対面してこそ、人は大きくその能力を伸長することができるのであり、臨地実習が正にその機会なのです。

しかし、その体験の場は、そこで出会う対象者にとっては、命をかけた生活の場であることを忘れてはなりません。看護職の倫理綱領を胸に、自制、自律の精神で個性を活かしながら勇気をもって行動していただきたいと願います。

学習途上にある皆さんなので、未熟な技術や十分でない知識で対象者と接することになるのは、やむを得ないことだと思います。その分対象者を思う気持ちは誰にも負けないという自負をもち、心を込めて対象者に寄り添って下さい。併せて、技術や知識の不足も自覚し、習得に向けての努力を怠らないで欲しいと思います。そして、そのような中で得られた、対象者の笑顔は、私たちの「看護の喜び」や「やりがい」を実感するものであり、なにものにも代えがたい価値ある体験となることと確信します。

苦しいことも多いと思いますが、間違いなく自己の成長につながるものです。自分の行動と健康管理に責任をもち、大いに自分を磨き、看護実践能力を培いましょう。

最後に、皆さんの臨地実習にご協力下さる対象者、お忙しい中ご指導頂く臨地実習指導者の皆様に感謝しつつ、有意義な臨地実習を実践して下さることを心から期待します。

（専）京都中央看護保健大学校
看護学科　学科長

目　次

看護職の倫理綱領…… 4
Ⅰ　教育理念、教育目的、教育目標…… 5
Ⅱ　ディプロマポリシー（卒業認定・高度専門士授与に関する方針）… 6
Ⅲ　臨地実習科目一覧…… 7
Ⅳ　各看護学の実習の目的と実習科目のねらい…… 8
Ⅴ　実習科目と実習施設一覧…… 9
Ⅵ　看護学科カリキュラム進度表…… 11
Ⅶ　実習における技術項目一覧…… 14
Ⅷ　領域別看護学実習…… 17
　１．基礎看護学…… 17
　　基礎看護学実習…… 17
　２．地域・在宅看護論…… 35
　　地域・在宅看護論実習Ⅰ…… 35
　　地域・在宅看護論実習Ⅱ…… 51
　３．領域横断…… 63
　　看護過程実習…… 63
　　健康状態別実習Ⅰ…… 77
　　健康状態別実習Ⅱ…… 91
　　手術室実習……103
　　ＩＣＵ実習……115
　４．小児看護学……127
　　小児看護学実習Ⅰ……127
　　小児看護学実習Ⅱ……139
　５．母性看護学……151
　　母性看護学実習……151
　６．精神看護学……165
　　精神看護学実習……165
　７．看護の統合と実践
　　統合実習
Ⅸ．共通実習要項……183
Ⅹ．実習施設一覧表……207

看護職の倫理綱領

日本看護協会「看護職の倫理綱領」

前文

人々は、人間としての尊厳を維持し、健康で幸福であることを願っている。看護は、このような人間の普遍的なニーズに応え、人々の生涯にわたり健康な生活の実現に貢献することを使命としている。

看護は、あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象としている。さらに、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通して最期まで、その人らしく人生を全うできるようその人のもつ力に働きかけながら支援することを目的としている。

看護者は、免許によって看護を実践する権限を与えられた者である。看護の実践にあたっては、人々の生きる権利、尊厳を保持される権利、敬意のこもった看護を受ける権利、平等な看護を受ける権利などの人権を尊重することが求められる。同時に、専門職としての誇りと自覚をもって看護を実践する。

日本看護協会の『看護職の倫理綱領』は、あらゆる場で実践を行う看護職を対象とした行動指針であり、自己の実践を振り返る際の基盤を提供するものである。 また、看護の実践について専門職として引き受ける責任の範囲を、社会に対して明示するものである。

条文

1．看護職は、人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重する。
2．看護職は、対象となる人々に平等に看護を提供する。
3．看護職は、対象となる人々との間に信頼関係を築き、その信頼関係に基づいて看護を提供する。
4．看護職は、人々の権利を尊重し、人々が自らの意向や価値観に沿った選択ができるよう支援する。
5．看護職は、対象となる人々の秘密を保持し、取得した個人情報は適正に取り扱う。
6．看護職は、対象となる人々に不利益や危害が生じているときは、人々を保護し安全を確保する。
7．看護職は、自己の責任と能力を的確に認識し、実施した看護について個人としての責任をもつ。
8．看護職は、常に、個人の責任として継続学習による能力の開発・維持・向上に努める。
9．看護職は、多職種で協働し、よりよい保健・医療・福祉を実現する。
10. 看護職は、より質の高い看護を行うために、自らの職務に関する行動基準を設定し、それに基づき行動する。
11. 看護職は、研究や実践を通して、専門的知識・技術の創造と開発に努め、看護学の発展に寄与する。
12. 看護職は、より質の高い看護を行うため、看護者自身のウェルビーイングの向上に努める。
13. 看護職は、常に品位を保持し、看護職に対する社会の人々の信頼を高めるよう努める。
14. 看護職は、人々の生命と健康をまもるため、さまざまな問題について、社会正義の考え方をもって社会と責任を共有する。
15. 看護職は、専門職組に所属し、看護の質を高めるための活動に参画し、よりよい社会づくりに貢献する。
16. 看護職は、様々な災害支援の担い手と協働し、災害によって影響を受けたすべての人々への生命、健康、生活をまもることに最善を尽くす。

Ⅰ　教育理念、教育目的、教育目標

教育理念

本大学校では、人間尊重と調和の精神を基調に豊かな感性に基づく看護を実践し、ともに支えともに成長する社会の実現に向けて、未来に躍進する看護職者を育成する。

その過程では、「科学の知」と「臨床の知」を相補的に絡ませ、看護の対象となる一人ひとりのさまざまな生活や、それぞれの場面で生じる一つひとつの事象に熟考を重ね、次なる経験に活かせる思考を培う。また、保健・医療・福祉に関する全ての職種と協働し、京都の地から、コスモス（校花）の語源であるグローバルな視野をもって地域住民の健康水準向上に寄与できる素養を養う。

科学の知：普遍性・客観性・論理性
臨床の知：個別性・相互作用性・多義性

教育目的

本大学校は教育基本法および学校教育法に基づき教育を実施し、保健師助産師看護師法の主旨に則り、専門的知識･技術を教授するとともに、健全で、調和のとれた人間教育を行い、看護実践者として、広く社会に貢献しうる有能な人材を育成することを目的とする。

教育目標

1．人間尊重と調和の精神を基調に、互いに自律し尊重できる
2．看護師としての責務を自覚し、倫理的な判断を基に看護を実践できる
3．対象者の暮らしを創造的にとらえ、健康状態に応じた看護を実践できる
4．看護の役割を理解し、多様な人々と連携・協働し、チームの一員として行動できる
5．看護師として学び続ける力を身につけることができる

Ⅱ　ディプロマ・ポリシー（卒業認定・高度専門士授与に関する方針）

1．人としての成長を目指せる人間性の豊かさを身につけている
　1）互いに自律し、尊重し、支え合いながら、人間関係を構築・発展できる
　2）看護師を目指すものとして、心身の健康を自己管理できる
2．生命の尊厳をもって対象に関わることができる力を身につけている
　1）看護師としての責務を自覚し、対象の意思決定を支え、倫理的な判断を基に看護を実践できる
　2）倫理的感受性を高め、道徳的に判断することができる
3．対象を生活者としてとらえ健康状態に応じた看護が実践できる力を身につけている
　1）社会の中で生活する一人ひとりをとらえることができる
　2）科学的思考を用いて健康状態に応じた看護を実践できる
　3）臨床推論に基づき、安全かつ適切に看護を実践できる
4．チームの一員として、多職種と連携・協働できる力を身につけている
　1）多職種と連携･協働しながらチームの一員であることを自覚し、行動に対する責任を持つことができる
　2）チームの一員として自ら医療安全に基づいた行動ができる
5．看護を探求しつづける力を身につけている
　1）自らの課題を見出し、学び続けることができる
　2）自らの成長を目指して、省察することができる
　3）看護の質向上のために研究的視野をもった行動ができる

Ⅲ　臨地実習科目一覧

分野	実習科目		単位	配当年次	主な実習施設
専門分野	基礎看護学	基礎看護学実習	1	1年	病院
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習Ⅰ	2	3年	介護老人保健施設 介護老人福祉施設
					福祉施設 地域包括支援センター
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	3年・4年	訪問看護ステーション
	領域横断	看護過程実習	3	2年	病院
		健康状態別実習Ⅰ	3	3年・4年	病院
		健康状態別実習Ⅱ	2	3年・4年	病院
		手術室実習	1	3年・4年	病院
		ICU 実習	1	3年・4年	病院
	小児看護学	小児看護学実習Ⅰ	1	2年	保育施設、育児支援施設
		小児看護学実習Ⅱ	1	3年・4年	病院
	母性看護学	母性看護学実習	2	3年・4年	病院、子育て支援ステーション
	精神看護学	精神看護学実習	2	3年・4年	病院
	看護の統合と実践	統合実習	3	4年	病院
計			24		

Ⅳ　各看護学の実習の目的と実習科目のねらい

分野	看護学	実習の目的	実習科目
専門分野	基礎看護学	基礎看護学実習（前半）	臨床講義･病院見学を通して、看護活動の実際を知ることにより看護師を目指すものとして目的を明確にする
		基礎看護学実習（後半）	日常生活の援助を通して、患者と相互関係を築き患者理解を深め、看護職者としての姿勢を培う
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習Ⅰ	地域で生活する人々･家族について理解し、健康と暮らしを支える看護が実践できる基礎的能力を培う
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	地域の看護活動を知り、療養する人々と家族の健康と暮らしを支える看護を実践する基礎的能力を培う
	領域横断	看護過程実習	受け持ち患者の看護を通して、看護診断能力を育成するとともに、患者に応じた看護を実践する能力を培う
		健康状態別実習Ⅰ	健康問題を抱え入院する患者を総合的に理解し、問題解決思考を活用し、健康状態に応じた看護を実践する能力を培う
		健康状態別実習Ⅱ	周術期にある対象を総合的に理解し、苦痛の緩和と手術侵襲からの回復促進に向けて看護を実践する基礎的能力を培う
		手術室実習	手術侵襲が対象に及ぼす影響を理解し、手術をする場において多職種と連携しながら看護を実践できる基礎的能力を培う
		ICU 実習	集中治療を受ける対象を理解し、臨床の看護師の思考にふれながら看護問題を判断し看護を実践する基礎的能力を培う
	小児看護学	小児看護学実習Ⅰ	小児看護の対象を理解し、子どもの健康の保持増進や健康問題の解決に向けた看護が実践できる基礎的能力を培う
		小児看護学実習Ⅱ	小児看護の対象を理解し、子どもの健康の保持増進や健康問題の解決に向けた看護が実践できる基礎的能力を培う
	母性看護学	母性看護学実習	妊産婦、褥婦および新生児とその家族に対して、次世代の健全な育成に向けた切れ目ない支援をするための基礎的能力を培う
	精神看護学	精神看護学実習	受け持ち患者が望む「生活」や「生き方」の実現を目指す過程をサポートする看護について考え、実践する能力を培う
	看護の統合と実践	統合実習	看護専門職者として自己の課題を明確にし、自己研鑽する能力を培うとともに、看護チームの一員として実務に即した看護実践に主体的に取り組み、看護実践能力の向上をめざす

V　実習科目と実習施設

		基礎看護学実習（前半）	基礎看護学実習（後半）	地域・在宅看護論実習Ⅰ	地域・在宅看護論実習Ⅱ	看護過程実習	健康状態別実習Ⅰ	健康状態別実習Ⅱ	手術室実習	ICU実習	小児看護学実習Ⅰ	小児看護学実習Ⅱ	母性看護学実習	精神看護学実習	統合実習
病院	医療法人同仁会（社団） 京都九条病院	●	●			●	●								●
	医療法人社団蘇生会 蘇生会総合病院	●	●			●	●								●
	医療法人清仁会 洛西ニュータウン病院	●	●			●	●								●
	宇治武田病院						●	●							
	地方独立行政法人京都市立病院機構 京都市立病院						●	●							
	医療法人社団石鎚会 京都田辺中央病院						●	●	●	●					●
	一般財団法人長岡記念財団 長岡ヘルスケアセンター（長岡病院）													●	
	医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院							●	●	●		●	●		
	京都第一赤十字病院											●	●		
	社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院	●	●			●		●	●	●		●	●		
	公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院												●		
	医療法人医仁会 武田総合病院							●	●	●					
	医療法人社団　育生会　京都久野病院														●
	一般財団法人 京都地域医療学際研究所 がくさい病院	●	●												●
	医療法人社団　恵心会 京都武田病院					●									
	一般財団法人　日本バプテスト連盟 医療団　日本バプテスト病院												●		
	社会福祉法人　恩賜財団 京都済生会病院												●		
	医療法人徳洲会 六地蔵総合病院											●			
	医療法人社団　親和会 京都木原病院		●			●									
保育施設	社会福祉法人　ゆうあい会 こども園いしはら										●				
	社会福祉法人ののはな会 吉祥院こども園										●				
	社会福祉法人塔南学園 塔南保育園										●				
	社会福祉法人 下京ひかり保育園										●				
	宗教法人 隨林寺保育園										●				
	社会福祉法人宇治福祉園 みんなのき　三室戸こども園										●				
	社会福祉法人宇治福祉園 みんなのき　三室戸こども園										●				
	社会福祉法人　だん王子供の家 だん王保育園										●				
	京あんしん館										●				
	京都市修徳児童館												●		
介護老人福祉施設	社会福祉法人京都悠仁福祉会 特別養護老人ホーム　ヴィラ山科			●											
	社会福祉法人京都悠仁福祉会 特別養護老人ホーム　ヴィラ稲荷山			●											
介護老人保健施設	医療法人医仁会 老人保健施設　いわやの里			●											
	医療法人社団医聖会 介護老人保健施設　梨の里			●											
	京都清水メディケアシステム 介護老人保健施設　京しみず			●											

		基礎看護学実習（前半）	基礎看護学実習（後半）	地域・在宅看護論実習Ⅰ	地域・在宅看護論実習Ⅱ	看護過程実習	健康状態別実習Ⅰ	健康状態別実習Ⅱ	手術室実習	ICU実習	小児看護学実習Ⅰ	小児看護学実習Ⅱ	母性看護学実習	精神看護学実習	統合実習
訪問看護ステーション	医療法人　岡本病院（財団） 訪問看護ステーションひまわり				●										
	医療法人同仁会（社団）京都九条病院 訪問看護ステーション・マム				●										
	社会福祉法人西陣健康会ほりかわ 訪問看護ステーション				●										
	医療法人宇治徳洲会宇治徳洲会 訪問看護ステーション				●										
	医療法人社団蘇生会蘇生会 訪問看護ステーション				●										
	医療法人清仁会訪問看護ステーション 「亀岡シミズ」				●										
	医療法人清仁会訪問看護ステーション 「シミズ」				●										
	えがお訪問看護ステーション				●										
	指定訪問看護ステーション有限会社 訪問看護ステーション「ケアネットよしだ」				●										
	医療法人社団　淀さんせん会 訪問看護ステーション　ひだまり				●										
	ぐりっど洛西訪問看護ステーション				●										
福祉施設	障害者雇用支援サービス事業 スパシアム京都就労支援センターししん			●											
	社会福祉法人　京都光彩の会 西山高原工作所			●											
	社会福祉法人　京都光彩の会 京都市朱雀工房			●											
	社会福祉法人　京都育成の会 西寺育成苑			●											
	社会福祉法人　京都聴覚言語障害者福祉協会 京都市聴覚言語障害センター青空工房			●											
	社会福祉法人　修光学園 ワークセンターHalle ！			●											
	社会福祉法人　京都障害者福祉センター 京都市洛南障害者授産所			●											
	社会福祉法人　あらぐさ福祉会 あらぐさ			●											
地域包括支援センター	東宇治南地域包括支援センター			●											
	中宇治地域包括支援センター			●											
	西宇治地域包括支援センター			●											
	修徳地域包括支援センター			●											
	長岡京市東地域包括支援センター			●											
	長岡京市西地域包括支援センター			●											
	花園地域包括支援センター（高齢サポート）			●											
	向島地域包括支援センター（高齢サポート）			●											
	嵐山地域包括支援センター（高齢サポート）			●											
	淀地域包括支援センター（高齢サポート）			●											
	桃山地域包括支援センター（高齢サポート）			●											

Ⅶ　実習における技術項目一覧

■卒業時の到達レベル　　＜実習＞ Ⅰ：単独で実施できる　Ⅱ：指導の下で実施できる　Ⅲ：実施が困難な場合は見学する
★は学内実習での体験項目を示す。なお、22 入浴・シャワー浴については地域・在宅看護論実習Ⅰの臨地実習の中で必ず実施する

項目		技術の種類	実習 卒業時の到達度	95 基礎看護学実習	96 地域・在宅看護論実習Ⅰ	97 地域・在宅看護論実習Ⅱ	98 看護過程実習	99 健康状態別実習Ⅰ	100 健康状態別実習Ⅱ	101 手術室実習	102 ＩＣＵ実習	103 小児看護学実習Ⅰ	104 小児看護学実習Ⅱ	105 母性看護学実習	106 精神看護学実習	107 統合実習
1. 環境調整技術	1	快適な療養環境の整備	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ		Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅰ	Ⅰ
	2	臥床患者のリネン交換	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ★		Ⅱ		Ⅱ			Ⅱ
2. 食事の援助技術	3	食事介助（嚥下障害のある患者を除く）	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ			Ⅰ
	4	食事指導	Ⅱ				Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ							Ⅱ
	5	経管栄養法による流動食の注入	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ					Ⅱ
	6	経鼻胃チューブの挿入	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ					Ⅲ
3. 排泄援助技術	7	排泄援助（床上、ポータブルトイレ、オムツ等）	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ			Ⅱ
	8	膀胱留置カテーテルの管理	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ★	Ⅲ	Ⅱ					Ⅲ
	9	導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ★	Ⅲ					Ⅲ
	10	浣腸	Ⅲ	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ		Ⅲ					Ⅲ
	11	摘便	Ⅲ	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ		Ⅲ					Ⅲ
	12	ストーマ管理	Ⅲ			Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ		Ⅲ					Ⅲ
4. 活動・休息援助技術	13	車椅子での移送	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ★	Ⅰ		Ⅱ		Ⅱ		Ⅱ	Ⅰ
	14	歩行・移動介助	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ		Ⅱ		Ⅱ		Ⅱ	Ⅰ
	15	移乗介助	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ		Ⅱ	Ⅱ
	16	体位変換・保持	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ		Ⅱ		Ⅱ			Ⅰ
	17	自動・他動運動の援助	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ					Ⅱ
	18	ストレッチャー移送	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ			Ⅱ
5. 清潔・衣生活援助技術	19	足浴・手浴	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ		Ⅱ		Ⅱ		Ⅰ	Ⅰ
	20	整容	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ		Ⅱ		Ⅱ		Ⅰ	Ⅰ
	21	点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ		Ⅱ		Ⅱ			Ⅰ
	22	入浴・シャワー浴の介助	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ★	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ		Ⅱ		Ⅱ	Ⅱ
	23	陰部の保清	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		Ⅱ		Ⅱ			Ⅱ
	24	清拭	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		Ⅱ		Ⅱ		Ⅱ	Ⅱ
	25	洗髪	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ		Ⅱ		Ⅱ	Ⅱ
	26	口腔ケア	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		Ⅱ				Ⅱ	Ⅱ
	27	点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ★		Ⅱ		Ⅱ			Ⅱ
	28	新生児の沐浴・清拭	Ⅲ										Ⅱ	Ⅰ★		
6. 呼吸・循環を整える技術	29	体温調節の援助	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅱ			Ⅰ
	30	酸素吸入療法の実施	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅱ★			Ⅱ
	31	ネブライザーを用いた気道内加湿	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ		Ⅱ★			Ⅱ
	32	口腔内・鼻腔内吸引	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ		Ⅲ		Ⅲ			Ⅲ
	33	気管内吸引	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ		Ⅲ					Ⅲ
	34	体位ドレナージ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ					Ⅲ
7. 創傷管理技術	35	褥瘡予防ケア	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ					Ⅱ
	36	創傷処置（創洗浄、創保護、包帯法）	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ					Ⅱ
	37	ドレーン類の挿入部の処置	Ⅲ	Ⅲ			Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅱ					Ⅲ
8. 与薬の技術	38	経口薬（バッカル錠、内服薬、舌下錠）の投与	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ		Ⅲ		Ⅲ	Ⅱ
	39	経皮・外用薬の投与	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ		Ⅲ		Ⅱ	Ⅱ
	40	坐薬の投与	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅲ		Ⅲ			Ⅱ
	41	皮下注射	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ		Ⅲ			Ⅲ
	42	筋肉内注射	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ		Ⅲ			Ⅲ
	43	静脈路確保・点滴静脈内注射	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ		Ⅲ			Ⅲ
	44	点滴静脈内注射の管理	Ⅱ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ★	Ⅲ	Ⅱ		Ⅱ			Ⅱ
	45	薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ		Ⅲ			Ⅲ
	46	輸血の管理	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ		Ⅲ			Ⅲ

項目		技術の種類	実習 卒業時の到達度	95 基礎看護学実習	96 地域・在宅看護論実習Ⅰ	97 地域・在宅看護論実習Ⅱ	98 看護過程実習	99 健康状態別実習Ⅰ	100 健康状態別実習Ⅱ	101 手術室実習	102 ICU 実習	103 小児看護学実習Ⅰ	104 小児看護学実習Ⅱ	105 母性看護学実習	106 精神看護学実習	107 統合実習
9. 救命救急処置技術	47	緊急時の応援要請	Ⅰ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ				Ⅱ	Ⅰ
	48	一次救命処置（Basic Life Support：BLS）	Ⅰ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ					Ⅰ
	49	止血法の実施	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ							Ⅲ
10. 症状・生体機能管理技術	50	バイタルサインの測定	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ★	Ⅲ	Ⅰ★		Ⅱ		Ⅰ	Ⅰ
	51	身体計測	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ					Ⅲ			Ⅰ
	52	フィジカルアセスメント	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ★		Ⅱ★		Ⅱ		Ⅱ	Ⅱ
	53	検体（尿、血液等）の取扱い	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ		Ⅲ			Ⅱ
	54	簡易血糖測定	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ		Ⅲ		Ⅲ	Ⅱ
	55	静脈血採血	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ		Ⅲ		Ⅲ			Ⅲ
	56	検査の介助	Ⅱ	Ⅲ			Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅲ			Ⅱ
11. 感染予防技術	57	スタンダード・プリコーション（標準予防策）に基づく手洗い	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
	58	必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択・着脱	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ
	59	使用した器具の感染防止の取扱い	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ
	60	感染性廃棄物の取扱い	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ		Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ
	61	無菌操作	Ⅱ				Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ★	Ⅱ					Ⅱ
	62	針刺し事故の防止・事故後の対応	Ⅱ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ						Ⅱ
12. 安全管理の技術	63	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
	64	患者の誤認防止策の実施	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
	65	安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ	Ⅱ
	66	放射線の被ばく防止策の実施	Ⅰ				Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ					Ⅰ
	67	人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施	Ⅲ					Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ					Ⅲ
	68	医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ボンベ、人工呼吸器等）の操作・管理	Ⅲ		Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ★		Ⅲ			Ⅲ
13. 安楽確保の技術	69	安楽な体位の調整	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ			Ⅱ
	70	安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
	71	精神的安寧を保つためのケア	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ

★学内実習での体験内容については実習要項を参照する

Ⅵ　看護学科　カリキュラム進度表

講義　実習

分野	区分	教育内容	配当時期	124単位 単位数	3645時間 時間数	単位計（分野・領域）	指定規則 時間計	102単位 1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後	指定規則
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活、社会の理解	学びのステップ	1前	1	30	15	416	30								14
		自然科学Ⅰ（生物・化学）	1前	1	30			30								
		自然科学Ⅱ（物理）	2前	1	16					16						
		論理学	2後	1	30						30					
		法学	1前	1	30			30								
		生活科学	1前	1	30			30								
		人間と社会	1後	1	30				30							
		心理学	1前	1	30			30								
		教育学	1後	1	30				30							
		文化人類学	1後	1	30				30							
		人間関係論	1前	1	20			20								
		語学Ⅰ（英語）	2前	1	30					30						
		語学Ⅱ（中国語）	2後	1	30						30					
		芸術と創造	1全	1	20			20								
		キャリア開発	2全	1	30					30						
		小計		15	416											14
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ　生命　神経系	1前	1	30	16	180	30								16
		解剖生理学Ⅱ　呼吸器系　循環器系	1前	1	30			30								
		解剖生理学Ⅲ　運動器系　感覚器系　血液	1前	1	30			30								
		解剖生理学Ⅳ　消化器系　内分泌系	1前	1	30			30								
		解剖生理学Ⅴ　腎・泌尿器系　生殖器系　体液	1後	1	30				30							
		栄養と代謝	1前	1	30			30								
	疾病の成り立ちと回復の促進	臨床微生物	1後	1	30		300		30							
		病理学	1全	1	30			30								
		疾病理解の看護学的視点・症候論	1後	1	30				30							
		臨床検査	1後	1	30				30							
		疾病論Ⅰ　脳神経障害　運動器障害　自己免疫障害	1後	1	30				30							
		疾病論Ⅱ　呼吸器障害　循環器障害　血液・造血器障害	1後	1	30				30							
		疾病論Ⅲ　消化器障害　感覚器障害　歯・口腔障害	2前	1	30					30						
		疾病論Ⅳ　内分泌代謝体液障害　腎・泌尿器障害　生殖器障害	2前	1	30					30						
		治療論　リハビリテーション　放射線治療　透析療法　ME 機器	2前	1	30					30						
		薬理学	1後	1	30				30							
	健康支援と社会保障制度	臨床心理学	3前	1	16	7	182					16				6
		公衆衛生学	3全	1	30							30				
		保健医療福祉論	4全	1	16									16		
		社会福祉	2後	1	30						30					
		関係法規	3前	1	30							30				
		医療と倫理	4全	1	30									30		
		保健統計	3前	1	30							30				
		小計		23	662											22
専門分野	基礎看護学	看護学原論Ⅰ	1全	1	30	11	306	30								11
		看護学原論Ⅱ	3全	1	16							16				
		共通基本技術Ⅰ　技術論　安全	1全	1	30			30								
		共通基本技術Ⅱ　コミュニケーション　バイタルサイン	1全	1	30			30								
		共通基本技術Ⅲ　フィジカルアセスメント	2全	1	30					30						
		共通基本技術Ⅳ　看護過程	2前	1	30					30						
		生活援助技術Ⅰ　環境調整　活動・休息	1前	1	30			30								
		生活援助技術Ⅱ　食・排泄	1後	1	30				30							
		生活援助技術Ⅲ　清潔・衣生活	1後	1	30				30							
		診断治療に伴う技術Ⅰ　感染予防　吸引・酸素	2前	1	20					20						
		診断治療に伴う技術Ⅱ　診察・検査　与薬	2全	1	30					30						
	地域・在宅看護論 ＊2単位60時間 領域横断	地域・在宅看護概論Ⅰ	1全	1	30	4	120	30								6
		地域・在宅看護概論Ⅱ	2全	1	30					30						
		地域・在宅看護活動論Ⅰ	3前	1	30							30				
		地域・在宅看護活動論Ⅱ	3全	1	30							30				
	領域横断	健康教育論	2全	1	30	8	240			30						
		対象別保健論	3全	1	30							30				
		健康回復支援総論	1後	1	30				30							
		手術療法と看護	2前	1	30					30						
		問題解決思考活用法	2後	1	30						30					
		臨床判断の基礎	3全	1	30							30				
		多職種連携	3全	1	30							30				
		エンドオブライフケア	4全	1	30									30		
	成人看護学 ＊2単位60時間 領域横断	成人看護学概論	2全	1	30	4	120			30						6
		成人看護学方法論Ⅰ	2後	1	30						30					
		成人看護学方法論Ⅱ	2後	1	30						30					
		成人看護学方法論Ⅲ	3前	1	30							30				
	老年看護学 ＊1単位30時間 領域横断	老年看護学概論	2前	1	30	3	90			30						4
		老年看護学方法論Ⅰ	2後	1	30						30					
		老年看護学方法論Ⅱ	3前	1	30							30				
	小児看護学	小児看護学概論	2前	1	20	4	90			20						4
		小児看護学方法論Ⅰ	2全	1	30					30						
		小児看護学方法論Ⅱ	2後	1	20						20					
		小児看護学方法論Ⅲ	3前	1	20							20				
	母性看護学	母性看護学概論	2前	1	30	4	100			30						4
		母性看護学方法論Ⅰ	2後	1	30						30					
		母性看護学方法論Ⅱ	3前	1	20							20				
		母性看護学方法論Ⅲ	4全	1	20									20		
	精神看護学	精神看護学概論	1後	1	30	4	110		30							4
		精神看護学方法論Ⅰ	2前	1	30					30						
		精神看護学方法論Ⅱ	2後	1	30						30					
		精神看護学方法論Ⅲ	3前	1	20							20				
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ	3全	2	40	20	416					40				4
		看護の統合と実践Ⅱ	4全	1	30									30		
		看護管理	4全	1	20									20		
		家族看護学	3全	1	16							16				
		災害看護と国際協力	4全	1	30									30		
		感染症と看護	4全	1	20									20		
		看護リフレクションⅠ	2後	1	20						20					
		看護リフレクションⅡ	4全	1	30									30		
		看護の探求	3全	1	20							20				
		看護研究Ⅰ	3全	2	40							40				
		看護研究Ⅱ	4全	2	60									60		
		看護実践強化セミナーⅠ	3全	2	30							30				
		看護実践強化セミナーⅡ	4全	2	30									30		
		特定分野看護セミナー	4全	2	30									30		
	臨地実習	基礎看護学　基礎看護学実習	1全	1	40	24	975	40								3（プラス6単位 合計23単位）
		地域・在宅看護論　地域・在宅看護論実習Ⅰ	3前	2	80							80				2
		地域・在宅看護論　地域・在宅看護論実習Ⅱ	3後～4前	2	80								80			
		領域横断　看護過程実習	2前	3	120					120						成人看護学 老年看護学 4
		領域横断　健康状態別実習Ⅰ	3後～4前	3	120								120			
		領域横断　健康状態別実習Ⅱ	3後～4前	2	80								80			
		領域横断　手術室実習	3後～4前	1	40								40			
		領域横断　ICU 実習	3後～4前	1	40								40			
		小児看護学　小児看護学実習Ⅰ	2前	1	40					40						2
		小児看護学　小児看護学実習Ⅱ	3後～4前	1	40								40			
		母性看護学　母性看護学実習	3後～4前	2	80								80			2
		精神看護学　精神看護学実習	3後～4前	2	80								80			2
		看護の統合と実践　統合実習	4全	3	135									135		2
		小計		86	2567			1年次 時間数	1年次 単位数	2年次 時間数	2年次 単位数	3年次 時間数	3年次 単位数	4年次 時間数	4年次 単位数	66
		合計　講義時間数・単位数		100	2670		講義	940	32	846	30	538	23	346	15	
		合計　実習時間数・単位数		24	975		実習	40	1	160	4	320	8	455	11	
		年間合計　時間数・単位数		124	3645		年間	980	33	1006	34	858	31	801	26	
		総合計時間数（単位数）						124 単位（3645）								102